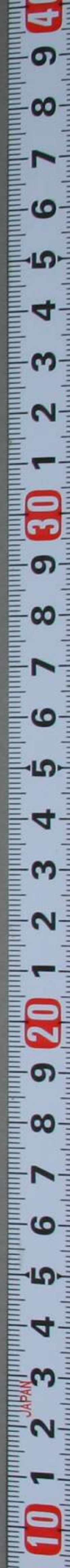




夫木和歌抄

卷第六



219

123

明八割
塘 1965
卷 6

あはれなる心は思ひつゝも
すか
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

仲実の信

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

續
後拾春下

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

正治二年一白首

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

源仲武

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも
あはれなる心は思ひつゝも

謀
練子内親王の歌
中誓

貞治三年百首
董業ノ歌ハ
千首ノ末トナリ
三ノ下ノ末ニ入ル

ひまもり 董
あか
か
元

たす
たす
朝臣
かな

文意三年七社百首
民部卿

千首歌
日

千首歌
日

千首歌
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

貞治三年百首董業
日

新統古春下

文治六年一社百首
日

文治六年一社百首
日

ひらねのあしをいそいでしるは 葉色
さうらうのうらみ

長安院の二親王の御子 孫性法師

そのあしをいそいでしるは 葉色
さうらうのうらみ

あえ三年のあしをいそいでしるは 葉色

さうらうのうらみ

同日平十一月苗彦百首 曰

さうらうのうらみ

葉色百首 葉色

さうらうのうらみ

中細 葉色

さうらうのうらみ

赤人

さうらうのうらみ

よみ人 葉色

さうらうのうらみ

さうらうのうらみ

さうらうのうらみ

杜若 三行カトル

西川院の御子の御子 葉色

さうらうのうらみ

日

らんのまゝとてくさばしつゝ花さへもあつた

らんとくさばしつゝ花さへもあつた

後醍醐天皇

あきのこころもあつたの杜のさくらもあつた

持中親原河内守

しんじつにあらはれしつゝ花さへもあつた

死仲納言

あきのこころもあつたの杜のさくらもあつた

源草

あきのこころもあつたの杜のさくらもあつた

文治五年九月百首

白雲寺文友集

あきのこころもあつたの杜のさくらもあつた

あきのこころもあつたの杜のさくらもあつた

久安百首

法橋納言

あきのこころもあつたの杜のさくらもあつた

家集

後醍醐天皇

渡の池のあなまきまき 若はる

えまえ年一社百首

部御 氏名百首

あひやうらの 跡

あまの志の 跡

遠くえ年一百首

弟中約 云々

わらわら 几雅春下

ふあ百首 若はる

源仲正

んんん 若はる

六帖題

佐々木

ぬ 影

光後

や 我

遠 首歌

日

杜 橋

橋 歌

合 夫

お 杜若

家集

西行

度 澤

杜 若

二條院讚岐女

い 日敷

221

文治二年百首 中細

国家の人びと
 江二庫

天保元年十廿百首 民部卿

千首 歌

秋夕のつらきつらき杜若のつらき
 秋夕のつらきつらき杜若のつらき
 秋夕のつらきつらき杜若のつらき

西

十方女の花の内 市

中細

秋夕のつらきつらき
 秋夕のつらきつらき
 秋夕のつらきつらき

寛和二年六月内裏 合

有原惟成

統後拾春下

つらうく井出のわたりはあまて改てあまうん山吹の

天曆十一年二月藤原家女内院

為盛

とあまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

衛士

實夏万佳木
万代雜上

あまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

このころ圓融院四位の女内院

あまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

あまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

圓融院四位

あまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

建保二年冬

あまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

百首

日

あまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

西河院

大御

あまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

五首

西河院

あまのりまのわたりはあまて改てあまうん山吹の

建長八年

西河院

那美なみのひはら敷敷とさうくうらひぬぬののかかのの花花

山集山歌と

花山院はなやま歌うた

さうさうのの人ひとよよささるる歌うたののここのの色いろよよささららるる山やま歌うた

歌集歌多を

推入おしこ細こ言ごららるる

ささのの色いろよよささららるる山やま歌うたななららりりととささららるるのの色いろよよささららるる

歌集又絶たつ歌うた黄わう 弟中あにちゆう細こ言ご定じやう歌うたらら

枝えだううのの山やま花はなももららりりととささららるるのの色いろよよささららるる

歌集中

弟中あにちゆう細こ言ご通とう房ぼう々々

久くのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるる

永入えいじゆ四年しよん四し月中げつ院いん入にるる右みぎ左ひだりのの歌うた合あははれ

~~~~~

身みととれれのの山やま花はなのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるる

文治ぶんじ六年ろくにん五ご社しゃ百ひゃく首しゆ 自みづかをを言ごままるる夫つま人ひと後のち歌うたらら

ゆゆのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるる

ああええとと年とし一いつ百ひゃく首しゆ 弟中あにちゆう細こ言ご院いん歌うた集しゆ

歌うた集しゆののこころろああややままららはは咲さききととささららるるのの色いろよよささららるる

~~~~~

ままのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるる

遠とほ曆りき二に年ねん十じゆ首しゆ 弟中あにちゆう細こ言ご定じやう歌うたらら

絶たつににああららるるのの色いろよよささららるるのの色いろよよささららるる

家集けしゆ中ちゆう

寛永八年平茶入内四屏風 曰
吾川の波 ^{かほ} けしき ^{はる} けしき ^{はる} けしき ^{はる} けしき ^{はる}

家集 ^歌 中 ^中 一 ^一 ^歌 一 ^一 ^歌

家集

和歌式部

家集

和歌式部

達也八年百首 ^歌 合 ^歌 事 ^歌 右 ^歌 細 ^歌 記 ^歌 右 ^歌

我 ^歌 山 ^歌 宿 ^歌 以 ^歌 て ^歌 宿 ^歌 寮 ^歌 一 ^歌 曲 ^歌 也 ^歌 云 ^歌

信長右伝

美 ^歌 山 ^歌 宿 ^歌 以 ^歌 て ^歌 宿 ^歌 寮 ^歌 一 ^歌 曲 ^歌 也 ^歌 云 ^歌

光俊右伝

思 ^歌 山 ^歌 宿 ^歌 以 ^歌 て ^歌 宿 ^歌 寮 ^歌 一 ^歌 曲 ^歌 也 ^歌 云 ^歌

家集中

源仲正

源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌 源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌 源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌

源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌 源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌 源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌 源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌

平祐拳

源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌 源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌 源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌 源 ^歌 仲 ^歌 正 ^歌

右の歌はあまの雲字の元補輔
このよき歌はあまの雲字の元補輔
屋門のよき歌はあまの雲字の元補輔

西宮の歌

あまの雲字の元補輔

小弁辭

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

福倉右大臣

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

日

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あまの雲字の元補輔

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

新古今入る二京親王あまの首川歌を

聖文天皇后

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

新古今入る二京親王あまの首川歌を

西園寺入る二京親王

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

常陸井入る二京親王

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

後二京親王

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

あや かしき かしき
あや かしき かしき
あや かしき かしき

貞應二年百首 民部卿

見ようか三月の夜に 勢あつちゅうの

あゆみ 百首

をきこく 柳のまの枝

又兼三年七社百首

ういへん びんごうの

日記

あひだの びんごうの

日記

あひだの びんごうの

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

あまらハ 柳のまの枝

吹 ^{はる}
 文永二年毎日一首中
 日永年毎百一首中
 日
 日永年毎日一首
 日

家集
 弘長元年山百首 夜更内大臣
 子首 ^歌
 民部卿 ^御
 頼 ^頼

観 ^観
 見部子夜の ^お
 二三位 ^歌
 二三位 ^歌
 二三位 ^歌

日
 日
 日
 日
 日

日
 日
 日
 日

154
 154

皇業心
家集
東山集

弘長元年山百首

夜長内六首

あまのついでにさあ〜〜〜

子首

民部卿

かみ 神さし〜〜〜

かみ けいさいのあまのついでに

文永二年毎日一首

おののけのついでに

日永年毎日一首

吹 吹のついでに

日永年毎日一首

あまのついでに

日

厚

かみ 吹のついでに

日

厚

あまのついでに

内裏百首

後二位

あまのついでに

歌

心三位

あまのついでに

新拾春下
天和物語
山階入るなる百首
山階入るなる百首
山階入るなる百首
山階入るなる百首

山階入るなる百首

山階入るなる百首

曰

新拾春下
天和物語

山階入るなる百首
山階入るなる百首
山階入るなる百首
山階入るなる百首

山階入るなる百首

家集

曰

山階入るなる百首
山階入るなる百首
山階入るなる百首
山階入るなる百首

山階入るなる百首

山階入るなる百首

三首

山階入るなる百首

山階入るなる百首

山階入るなる百首

山階入るなる百首

山階入るなる百首

山階入るなる百首

曰

山階入るなる百首

曰
師時

家業

あはれなる... (物)

歌集... (歌)

わが... (花)

天永四年... (輔)

有る

おの... (みきは)

里歌

光後

里の... (さし)

藤元 (三行)

近衛... (貫)

春... (若)

水... (日)

名... (江)

近... (日)

よ... (若)

近... (院)

若

あ... (江)

天... (歌)

若

これにて久しうとて...
長三年信者
氏神々由歌

何の...
常大初言の氏

島...
友の記

なる...
島

清見...
島

...
島

...
島

...
島

...
島

...
島

中納言家持御
内藏 繩丸

×萬

とてかたき^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

弘長三年信者

氏初^印由歌^御

何の^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

前大納言^{あき}由氏^{あき}

鳥^{あき}原^{あき}氏^{あき}はな〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

右の^{あき}路^{あき}

なま^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

鳥^{あき}原^{あき}の^{あき}お^{あき}

清^{あき}見^{あき}深^{あき}き^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

路^{あき}次^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

つら^{あき}右^{あき}の^{あき}表^{あき}の^{あき}裏^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

右^{あき}の^{あき}定^{あき}圓^{あき}の^{あき}歌^{あき}序^{あき}内^{あき}の^{あき}忠^{あき}業^{あき}

あ^{あき}ら^{あき}り^{あき}か^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

部^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

右^{あき}の^{あき}花^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

歌^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

あ^{あき}ら^{あき}り^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

布^{あき}勢^{あき}水^{あき}海^{あき}船^{あき}泊^{あき}支^{あき}の^{あき}浦^{あき}の^{あき}右^{あき}田^{あき}首^{あき}

中^{あき}細^{あき}言^{あき}家^{あき}持^{あき}御^{あき}

右^{あき}の^{あき}心^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜^{あき}〜

中^{あき}約^{あき}言^{あき}家^{あき}持^{あき}御^{あき}

内^{あき}藏^{あき}繩^{あき}丸^{あき}

形ふ和

うさく

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

家集まゝ歌中

愚考は師一

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

左大納言藤子の信よあしこのうさくしつらゆり

うさく

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

家集歌中

は九條門大信

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

的らのうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

藤倉右大臣

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

家集

西行と人

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

家集

鴨女

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

百首一首

正三位知政

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

貞徳三年百首一巻

うさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆりうさくしつらゆり

言まふな

色紙おわる

言ののるまの最舞一舞集さてさらりりのなようのな流

名を承り申

日

板ひにの花あのさのあはらりの流かはため

日

朝臣

あのさのなの流かはため

世宗社百首

后鳥羽院

かのりの川のなのののなの流かはため

あやなむ

善光院法親王

あのさのなの流かはため

文治六年廿八日

三位入右大臣

あのさのなの流かはため

寛治元年廿八日

前中納言

あのさのなの流かはため

天仁元年大嘗会

あのさのなの流かはため

大嘗会

あのさのなの流かはため

百首之歌

法一住の澄々

僕がすしとじつとんたのな衣もつと海すり此色

春のうかさ

後惠法師

楠よりこゑてあまうな浪の井廿さい松のまろ柳より

上西門院のあ

松よりうねり流のまろこゑもつな春のこゝろより

文永三年七月七百首浦友

法流院の歌

新統古春下
いりあまう哉うんまあな春味うあまううううう

歌集末巻の巻けり松の本にして

原右仲

春原のうねり松ううあまうんううううあまうあまう

天永四年潤之月歌

左京大夫源輔卿

波うねとんかんうん丁糸の松柳うううう春友と

百首之歌

たを中め云働

春原のこゑもあまうてあまうあまうあまうあまうあまう

西暦三年百首

新田院入る二あま

うううのうねり松の友のむいんあまうあまうあまうあまう

新田院百首

あま門院四條

了の^みく^り此^りの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

^満^錦^木^漬^木^綿^敷

拾^二女^一信^部定^意

あ^らふ^ら

寛治二年百首^歌松友^九条^門大^后

あ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

建長八年百首^歌右^近中^右信^部定^意

あ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

第^一大^納言^修平^仁

あ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

松^友九^条門^大后

あ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

あ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

建保四年百首^歌右^近中^右信^部定^意

あ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

嘉永元年百首^歌松^友九^条門^大后

あ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

西^海漢^文百首^歌右^近中^右信^部定^意

あ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^らの^りあ^らふ^ら

西^海漢^文百首^歌

右^近中^右信^部定^意

りしむらさきの花よりうらましくしきる花のいづれ
か

家集

徳和のた

か

まひらひのあなをいづれかきりしきりしきりしきりし
の

推後云ふ物

はらけの梢のさきははらけのさきははらけのさきは
は

女は花子也と歌ふ女は忠貞

家
ももこのまうし平なまのむじりしきりしきりしきりし
の

家集

た九條のた

はらけのさきははらけのさきははらけのさきははらけの
さ

た九條のた

歌のた

はらけのさきははらけのさきははらけのさきははらけの
さ

家集二首也平家又友はもれ院の歌

あうらまのはらけのさきははらけのさきははらけのさ
は

山歌友

は二位のた

はらけのさきははらけのさきははらけのさきははらけの
さ

家集二首也平中

日

はらけのさきははらけのさきははらけのさきははらけの
さ

はらけのさきははらけのさきははらけのさきははらけの
さ

はらけのさきははらけのさきははらけのさきははらけの
さ

百首平家

日

西條百首 ^歌
 西條百首 ^歌
 西條百首 ^歌
 西條百首 ^歌
 西條百首 ^歌
 西條百首 ^歌

文治六年一又社百首 日

花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}
 花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}
 花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}

文治八年一又社百首 民部 由良卿

花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}
 花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}
 花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}

西條百首 日

花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}
 花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}

家集 ^下
 家集 ^下
 家集 ^下

花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}
 花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}

西條百首 日

花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}
 花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}

西條百首 日

花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}
 花の花 ^{あけ} ^{あけ} ^{あけ}

^三 あつたあつた大浦のさつとせしなうらまはらふ

^{大九} ~~わ~~ ^は ~~ん~~ ^の ~~さ~~ ^た ~~る~~ ^は ~~ら~~ ^う ~~ら~~ ^に ~~あ~~ ^つ ~~た~~ ^ら ~~ん~~ ^と

寛治元年 抄首一 拾遺公抄

~~流~~ ^る ~~ら~~ ^ん ~~の~~ ^う ~~ら~~ ^に ~~あ~~ ^つ ~~た ^ら ~~ん~~ ^と~~

象草集 後醍醐天皇

和歌川^長 ^の ~~う~~ ~~ら~~ ^に ~~あ~~ ^つ ~~た ^ら ~~ん~~ ^と~~

古伝歌集 光後天皇

^六 ~~流~~ ^ら ~~う~~ ^ら ~~み~~ ^の ~~う~~ ^ら ~~に~~ ^あ ^つ ^た ^ら ^ん ^と

七歌集 七歌

^三 ~~あ~~ ~~つ~~ ~~た~~ ^ら ~~ん~~ ^と ~~あ~~ ~~つ~~ ~~た~~ ^ら ~~ん~~ ^と

七歌集

^六 ~~あ~~ ~~つ~~ ~~た~~ ^ら ~~ん~~ ^と ~~あ~~ ~~つ~~ ~~た~~ ^ら ~~ん~~ ^と

百首集 崇徳院日記

^新 ^後 ^拾 ^春 ^下 ~~あ~~ ~~つ~~ ~~た~~ ^ら ~~ん~~ ^と

崇徳院日記

^日 ^上 ~~あ~~ ~~つ~~ ~~た~~ ^ら ~~ん~~ ^と

百首集 中務卿の撰

~~あ~~ ~~つ~~ ~~た~~ ^ら ~~ん~~ ^と

歌集 歌集

三
みつゝのりもれ海^海のうら^{うら}しなむら^{むら}ら^らら^らら^ら
九^九ほそ^{ほそ}万又六^{万又六}
六^六千^千十^十万^万
玉^玉葉^葉ち^ちり^りり^りの浦^浦の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海
え^えの^の浦^浦の^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

寛治元年 二月 拾伍日 卯

流^流る^る所^所の^のう^うら^らし^しの^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

象^象集^集 後^後の^の日^日

和^和海^海の^のう^うら^らし^しの^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

光^光後^後の^の日^日

流^流る^る所^所の^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

光^光後^後の^の日^日

新^新三^三 流^流る^る所^所の^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

象^象集^集

新^新三^三 流^流る^る所^所の^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

百^百首^首 崇^崇徳^徳院^院の^の歌^歌

新^新後^後拾^拾春^春下^下 流^流る^る所^所の^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

唯^唯 崇^崇徳^徳院^院の^の歌^歌

日^日上^上 流^流る^る所^所の^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

中^中勢^勢と^との^の海^海倉^倉

あ^あら^らわ^わく^くの^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

流^流る^る所^所の^の海^海は^はし^しの^の海^海の^の海^海

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ
はなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

白浪二年百首 或子の歌日

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

或子の歌日 白浪二年百首

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

白浪二年百首 或子の歌日

新後拾春下

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

後二拾春日

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

或子の歌日

右を大納言總旨

連

増 増給日記

増

増

下字二

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

後二拾春日

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

大納言 総旨日

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

顯

あつてはなはたしなむにあらむとていひつゝいふたふ

後拾春日

...
踏...

...
時...
...
後...

...
小...

...
中...
...

...
...

百首...

...
院...

...
源仲...

...
...

...
...

...
...

...
...

相換

...
...

...
...

...
後...

仲...

歌集末巻の中

後二位歌澄

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま
久安百首

有喜門院安藤

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

うらやま

あはれ

六帖六

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

あはれ

あはれ

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

建久元年百首

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

あはれ

あはれ

現存

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

あはれ

あはれ

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

あはれ

あはれ

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

あはれ

あはれ

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

あはれ

あはれ中あはれのうらやまうらやまのうらやまうらやまのうらやまうらやま

弘安元年古くも中一打の條也也

新統古春下
 一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

新統古春下
 一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

中納言の(はる)中納言の(かた)り

一はりある好(はる)の(かた)り

三字ノ

あしきくもやふくもこそねほほくさくは
まじくもあそゆるく輝るくくとゆる

三行ノカトル

文和八年毎日音中 民部

あしきくもやふくもこそねほほくさくは
まじくもあそゆるく輝るくくとゆる

長女院入念法親王歌五十一首

後二行出度台

あしきくもやふくもこそねほほくさくは
まじくもあそゆるく輝るくくとゆる

新交た大旨

あしきくもやふくもこそねほほくさくは
まじくもあそゆるく輝るくくとゆる

三行ノカトル

長女院入念

あしきくもやふくもこそねほほくさくは
まじくもあそゆるく輝るくくとゆる

三行ノカトル

長女院入念

あしきくもやふくもこそねほほくさくは
まじくもあそゆるく輝るくくとゆる

長女院入念

あしきくもやふくもこそねほほくさくは
まじくもあそゆるく輝るくくとゆる

三行ノカトル

長女院入念

おと 歌集巻之三 中 西行入

思ひ出さる古葉しるる雪の心は秋の枝くもほろけりけり

田舎の雪の心は秋の枝くもほろけりけり 自作の歌を交へてある

ますし秋の心は秋の枝くもほろけりけり 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

あえ三年の雪の心は秋の枝くもほろけりけり

うらみと心は秋の枝くもほろけりけり 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

おもひ出さる古葉しるる雪の心は秋の枝くもほろけりけり

玉春下 美と心は秋の枝くもほろけりけり 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

えんえん雪の心は秋の枝くもほろけりけり

お中納言の歌

わろ本と心は秋の枝くもほろけりけり 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

おもひ出さる古葉しるる雪の心は秋の枝くもほろけりけり

新千春下 拾遺馬草中 美と心は秋の枝くもほろけりけり 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

あはれと心は秋の枝くもほろけりけり 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

三行合十

おもひ出さる古葉しるる雪の心は秋の枝くもほろけりけり

千五百首の歌 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

あはれと心は秋の枝くもほろけりけり 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

百首の歌 秋の心は秋の枝くもほろけりけり

美法和也

くねる野の草の結を如くうり雲のたのめられたる
文治六年一月廿一日首 皇太后御幸美濃如

くさるるの草けりわおせしけしひの松りけりて
くさるるの草のこゝろにまじりてくさるる
くさるるの草のこゝろにまじりてくさるる

くさるるの草のこゝろにまじりてくさるるの草
建仁八年百首と文合 佐らるる如

くさるるの草のこゝろにまじりてくさるるの草
美濃如見有明如 子如

唯疎半日春
一年の文をいかにし物然しひの中をみるにの

両つども光り日如
美濃如見有明如
天長二年宰相中の美濃如三月朔日
美濃如

三月廿一日
大傍正行

西後二年百首
皇太后院母如

歌苑
五葉春下

くさるるの草のこゝろにまじりてくさるるの草

258
△

夫木和歌抄卷第六 終

まゝいふよりの夜のたのそこ いそひ の指しぬらうけり

寂蓮 兼道法師

あまの浦やうらまへ たぢ のまはる たぢ しのぶ たぢ のうら たぢ のうら

たぢ ぬる たぢ 合 二位保重

きくればいづれ たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の

天徳四年二月廿日内裏合

持古卿

あまの たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の

文集百首あまのあまのあまのあまのあまの

兼中納言

うし たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の

字 たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の

同斜 斜 日

い たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の

洞院抄百首あまのあまのあまのあまのあまの

あ たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の たぢ の

